



環境省

～ローカルSDGs～

# アフターコロナの社会における地域循環共生圏 実践の意義

- 環境で地方を元気にする地域循環共生圏 -

令和2年9月

環境省 大臣官房 環境計画課



# 持続可能な社会に向けたパラダイムシフト

- 2015年9月 「**持続可能な開発のための2030アジェンダ**」採択
  - ※ 複数の課題の統合的解決を目指す**SDGs**を含む。
- 2015年12月 「**パリ協定**」採択
  - ※ 2℃目標達成のため、21世紀後半には温室効果ガス排出の**実質ゼロ**を目指す。
  - ※ 各国は、**削減目標**、**長期の戦略**、**適応計画**の策定などが求められる。



(資料：国連広報センター)

時代の  
転換点

パリ協定の採択

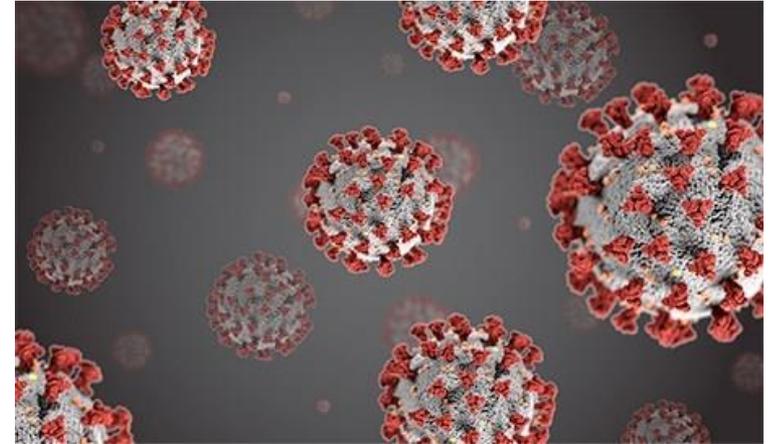


パリ協定が採択されたCOP21の首脳会合でスピーチする安倍総理  
(写真：首相官邸HPより)

新たな文明社会を目指し、**大きく考え方を転換(パラダイムシフト)**していくことが必要。

# 新型コロナのもたらしたものの

- 都市部における感染爆発の懸念  
⇒一極集中・過密都市のリスクが顕在化
- グローバルな移動による感染の拡大
- インバウンド観光の激減
- 海外のサプライチェーン依存による物資不足  
(例：マスク)  
⇒極端な外部依存による社会・経済のリスクが顕在化
- 病原体は森林破壊等によってもたらされた可能性も  
⇒生物多様性との向き合い方に再考が迫られている



Source : <https://cathnews.co.nz/2020/04/06/understanding-covid-19/>

## アフターコロナ・ウィズコロナの社会

- 極端な他者依存ではなく、ある程度は地域で自給自足できる態勢を持つ自立分散型の社会  
(特にエネルギーと食)
- 多様な地域が自立して存在することで、様々なリスクに対応し、仮にある地域がダメージを受けても、他の地域が生き残り、ダメージを受けた地域を助ける、というネットワーク型の社会
- テレワークの普及がこの動きを加速

# 今こそ、自立分散型社会へ！

- ・モノ
- ・エネルギー
- ・生態系サービス  
など

資源・お金  
人々の想いの**循環**

地下資源から  
地上資源の活用へ  
地産地消  
(特にエネルギー・食)

**自立した地域**  
〔地域活性化〕  
〔サステナブル〕

支えあう**共生**のネットワーク・風土に根差した**地域の多様性**

# 地域循環共生圏

地域の活力が最大限に発揮されることを目指す

- 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
- 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**

- ✓環境・経済・社会の統合的向上
- ✓あらゆる観点からイノベーションを創出
- ✓幅広いパートナーシップを充実・強化

生活の質を  
向上する  
「新しい成長」  
を目指す

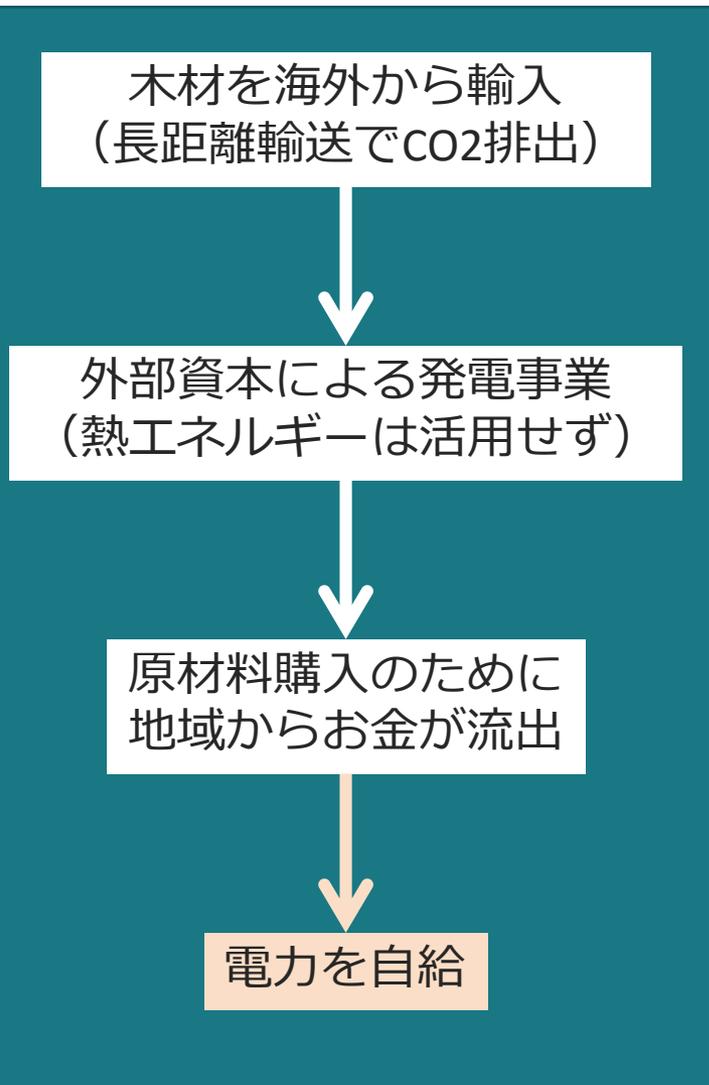
□一カルSDGs



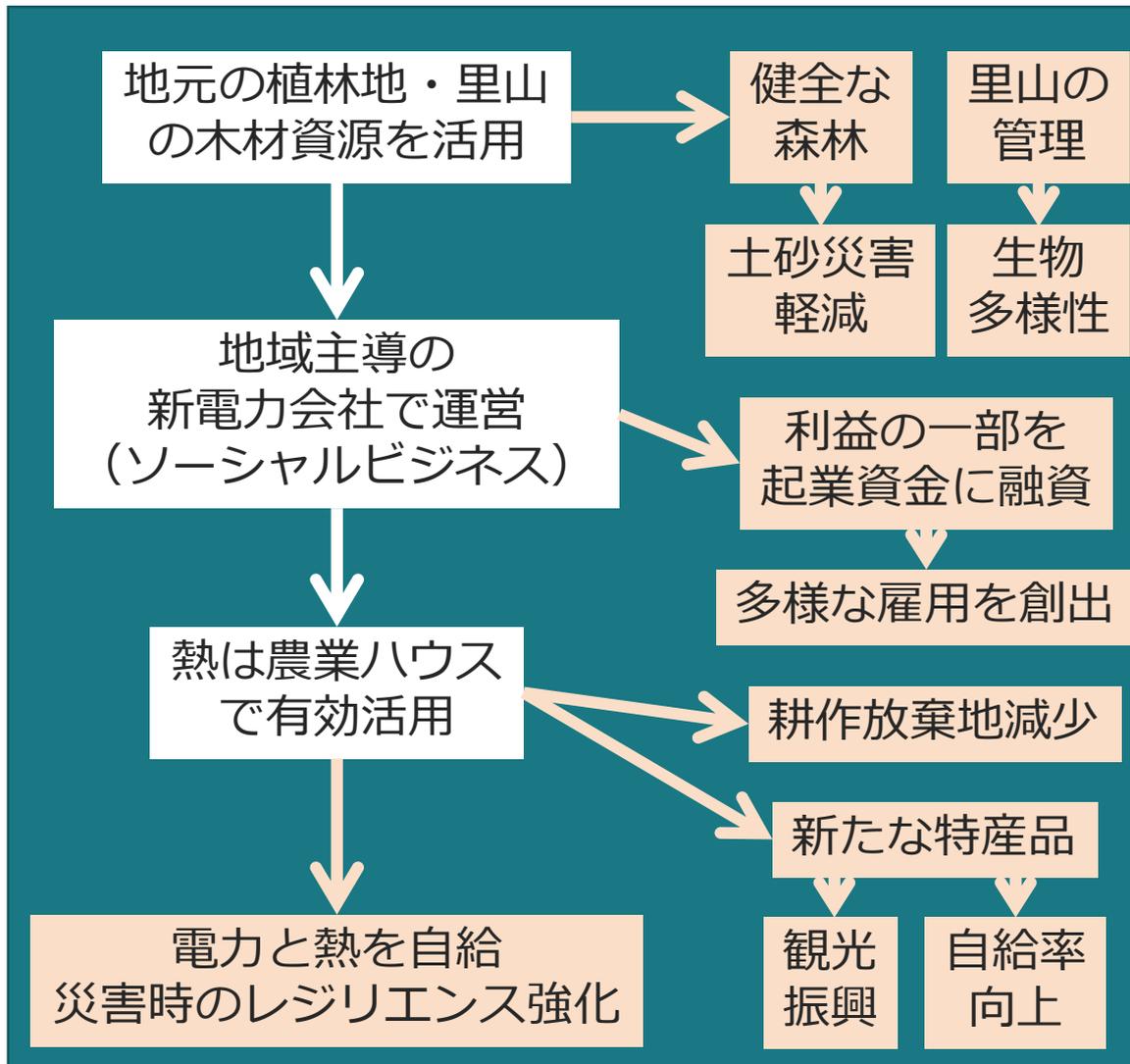
第五次環境基本計画  
(2018年4月 閣議決定)

# 地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

【従来の視点】



【地域循環共生圏の視点】



# 地域循環共生圏づくりのアプローチ

## Reactive 従来のアプローチ

### 計画

- ・課題解決型
- ・分野別対応
- ・フォア・キャストイング
- 基本計画

### 会議体

- ・合意形成
- ・環境分野の専門家・市民
- 協議会・検討会

### 取組

- ・規制
- ・補助金
- ・ボランティア

### 成果指標

- ・環境分野

## Proactive 地域循環共生圏づくりのアプローチ

### 計画

- ・価値創造型
- ・統合的・構造的対応
- ・バック・キャストイング
- コンセプトシート（マンダラ）



SDGsアプローチ

### 会議体

- ・協働（パートナーシップ）
- ・環境・経済・社会の各分野のプレーヤー
- ・コレクティブ・インパクト（学びあいと連携）
- 地域プラットフォーム



### 取組

- ・地域の資源を循環させ、持続可能な形で生かす
- ・経済性をともなった同時解決の事業
- ローカルSDGsビジネス

### 成果指標

- ・環境・経済・社会の各分野

今後の地域活性化・環境政策は両方のアプローチが必要

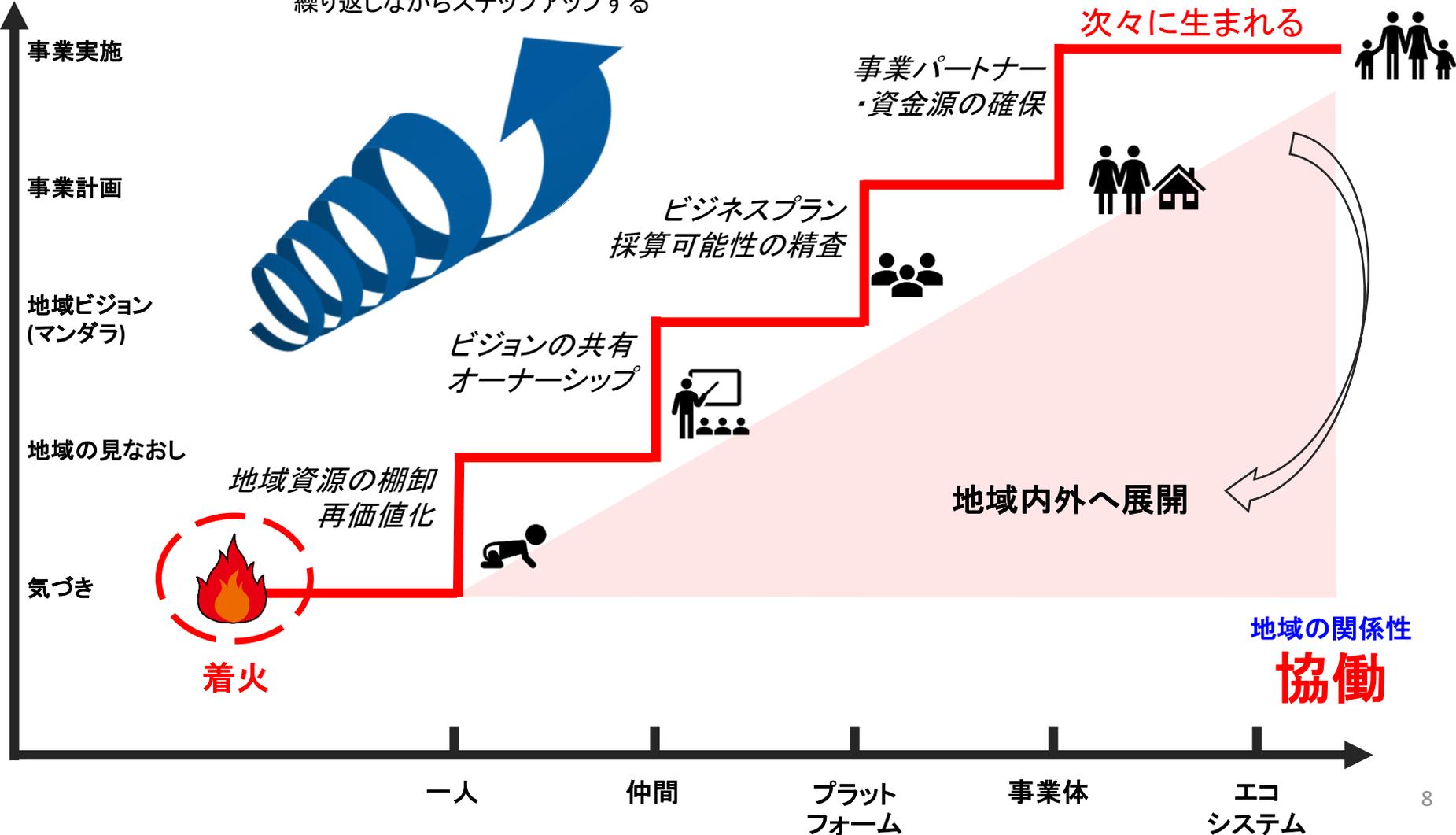
# 地域循環共生圏づくりのプロセス

事業熟度

地域の中で、知る・学ぶ・出会うを  
繰り返しながらステップアップする

地域循環共生圏のエコシステム

環境ビジネスが  
次々に生まれる



# 真庭版 地域循環共生圏

～真庭ライフスタイルの実現～



「エネルギーと食による 里地里山里海保全のモデル」を目指す

# 重層的な圏域で構成される地域循環共生圏

## 国際

- ・レアメタル等、高度なリサイクル技術を要するものの循環利用
- ・インバウンド観光の交流
- ・バリューチェーンを通じた環境負荷の低減

## ブロック内・国内

- ・再生可能のエネルギーの地域間融通
- ・金属・土石・処理困難物等の循環利用
- ・都市と地域の交流
- ・生きがい・働きがいのための交流
- ・農林水産物の国内消費

洋上風力

金属・土石・処理困難物等の循環利用

自然体験・新湯治  
ワーケーション

## 地域（市町村・流域）

- ・エネルギーの地産地消・地域新電力
- ・脱炭素地域交通
- ・バイオマス資源のエネルギー利用
- ・環境保全型農業
- ・農林水産物の地産地消

脱炭素地域交通

ローカルグリッド

農林水産物の地産地消

環境配慮型  
農林水産業の推進

## コミュニティ（集落・学区）

- ・自営線によりエネルギー自立街区
- ・ZEB・ZEH
- ・防災拠点の再エネ・畜エネ
- ・生活圏におけるリユース・リペア・リサイクル等
- ・廃食用油のバイオ燃料利用
- ・里山の木質バイオマスの熱利用 など

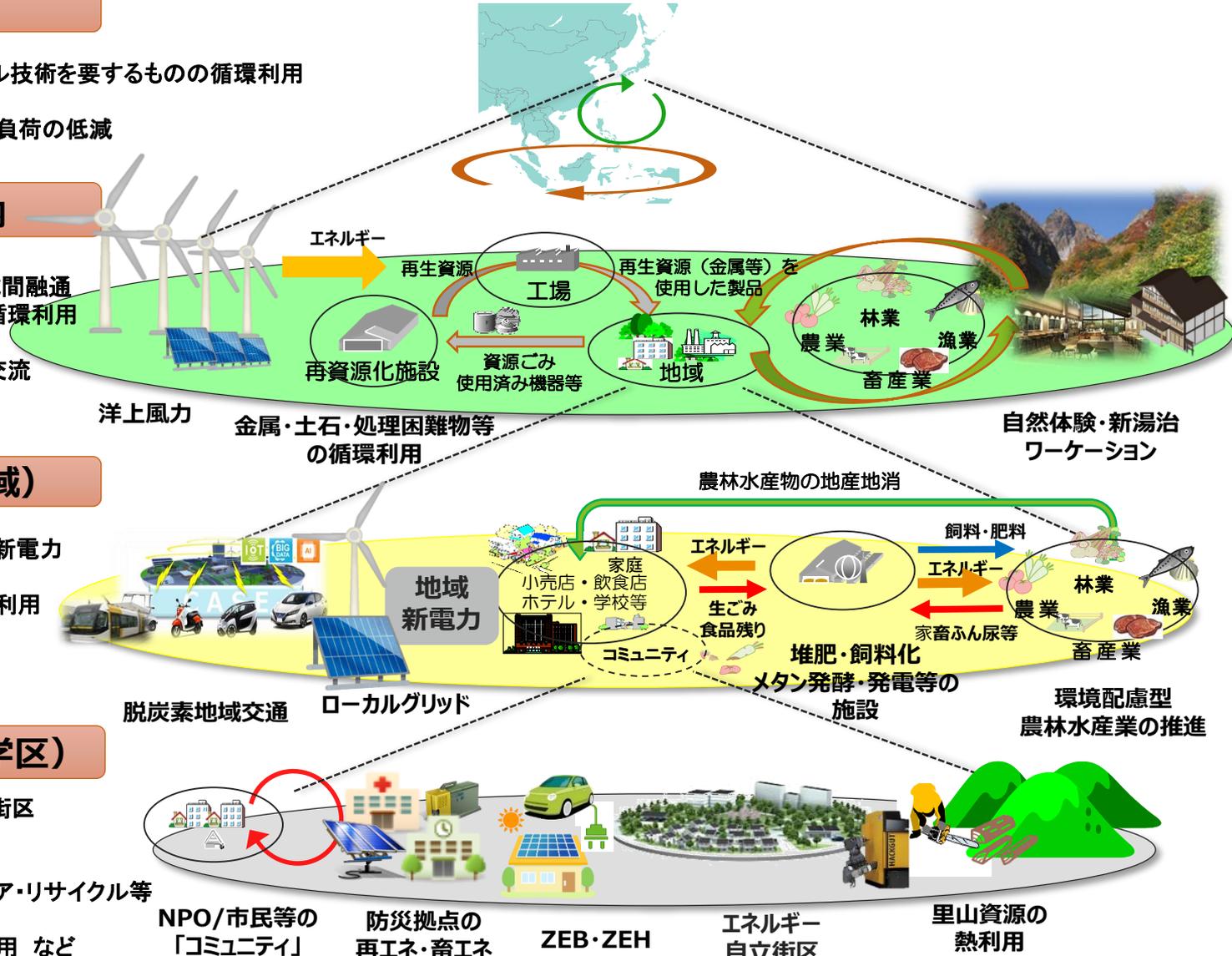
NPO/市民等の「コミュニティ」

防災拠点の再エネ・畜エネ

ZEB・ZEH

エネルギー自立街区

里山資源の熱利用



# ブロック内・国内での広域的な取組事例

## 北岩手9市町村：横浜市と連携した再エネ・自然の恵みの循環

- 豊富な「森・里・川・海」、再エネを地域資源として活用し、人間の求める生活の基盤(衣食住)や人間らしい生き方を提供できる地域へ
- 都市住民にとって魅力ある「北岩手ブランド」として確立し、北岩手故の高付加価値として産み出す
- 域内の経済循環からの生活レベルの向上、交流人口の増加、移住・定住の促進等を図る



# 地域（市町村・流域）レベルでの地域循環共生圏の取組事例

## 北海道鹿追町：家畜ふん尿由来のバイオガスを活用した持続可能な地域づくり

- 地域の課題であった家畜ふん尿からバイオガスを発生させ、発電、熱利用（チョウザメ、マンゴー、ハウス野菜等）、
- 大量に発生するふん尿の処理を課題解決（悪臭による生活および観光への影響、水質への懸念、酪農家の手間）
- バイオガスプラントを利用する酪農家では飼育頭数が約20%増
- 再エネ由来の水素ファーム（製造、貯蔵、輸送、利用）の実証試験を開始



# 北海道鹿追町の事例から見る、地域循環共生圏実現の意義

